

スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会会議録

			記録者	スポーツ推進課 係長		染谷 優一
供 覧	部 長	次 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員
件 名	令和6年度第3回スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会会議録					
日 時	令和7年1月17日（金）午前10時00分～午前11時40分					
場 所	龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室					
主 催 者	龍ヶ崎市長 萩原 勇					
出 席 者	[委員] 田畑亨会長、橘川栄作委員、塚本裕委員、荒井久仁夫委員、木村忠夫委員、望月進委員、浅野美玲委員、渡部桂太委員、湯原加那子委員、後藤泉委員					
	欠席委員…櫻井円香委員					
	[市] 足立健康スポーツ部長、佐々木健康スポーツ次長、昇スポーツ推進課長、木村課長補佐、記録者					
	[令和6年度スポーツクライミングのまち龍ヶ崎推進支援事業業務委託受託事業者] デロイトトーマツコンサルティング合同会社					
傍聴人の数	1名					
会議の内容	議 事 (1) スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）について					
情報公開	公 開	非公開（一部非公開を含む）とする理由		年 月 日		
	部分公開 非 公 開	公開が可能となる時期（可能な範囲で記入）				
	発言の内容（要旨）					
事務局	〔開会〕 皆様、おはようございます。 それでは定刻となりましたので、只今より、令和6年度第3回スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想策定審議会を開催いたします。 本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 第3回の審議会については、第2回審議会において、委員の皆様からいただいた意見を基に修正をしたものと、第1回、第2回の審議会及びワークショップやアンケート結果を取りまとめまして、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想としてまとめたものに対し、委員の皆様のご意見をいただくものですのでよろしくお願いいたします。 委員の出席状況であります。本日、桜井委員がご都合により欠席となっております。 それ以外の委員の皆様にはご出席いただいておりますので、定数に達しており、本会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。 なお、当審議会は龍ヶ崎市附属機関の会議の公開に関する条例に基づき、公開となっており、本日は1名の傍聴の方がいらっしゃいますことをご報告させていただきます。 傍聴される方におかれましては、ご静粛に傍聴いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。 会議の際には携帯電話の電源を切るか、マナーモードにさせていただきますようお願い申し上げます。					

	次に、議題に入ります前に、本審議会の会議録の作成に関してですが、会議録は会議の公開と同様、当市の条例により一般に公開することになっております。会議録を作成するにあたって、会議録には、原則、発言者の氏名を記載するようになっておりますので、委員の皆様におかれましては、あらかじめご了承くださいと思います。 また、発言の際には、目の前にあるマイクのボタンをオンにしてから発言いただきますようお願いいたします。 最後に第1回、第2回の資料の中から、全体的な言い回しや、ですます調等の語尾の統一、誤字脱字などの修正を行っております。 また、画像やアイコンにつきましてはこれまで、イメージを持ちやすいように、仮のものを入れさせていただいておりますが、今後パブリックコメント等につきまして、著作権等の確認が取れた正式なものに差し替えさせていただいております。 それでは会議の次第に従って議事に移りたいと思います。 進行につきましては、田畑会長よろしく申し上げます。
田畑会長	皆様おはようございます。 また、本年もどうぞよろしくお願いいたします。 本日は第3回の審議会という形になりますので、第2回同様に、引き続き活発なご意見をいただければと思います。 また、日々寒い日が続いておりますが、くれぐれも委員の皆様におかれましては、体調にご留意いただければと思います。 着座にて失礼します。 それでは、次第に従って議事の方を進行していきたいと思います。 皆様には円滑な進行ができるよう、ご協力をお願いいたします。 議題に入ります前に、本日の会議における会議録署名人の選任でございますが、本日は荒井委員と湯原委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
全委員	〈了承〉
田畑会長	それではよろしくお願いいたします。 それでは審議の方に移りたいと思います。 前回の会議に続き、スポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）についてです。 まず、事務局からご説明いただいた後に、皆様からのご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。 それでは事務局の方から説明をお願いいたします。
事務局	〈資料に基づき事務局から説明〉
田畑会長	どうもありがとうございました。 ただいま事務局より説明がありましたが、皆様からのご意見ご質問等がありましたら挙手にてご発言をお願いいたします。
田畑会長	皆様が考えている間に、私の方から3点ほど、確認させていただきたいのですが、今、事務局から説明いただいたスポーツクライミングのまち龍ヶ崎基本構想（案）の資料については、公開されることと思いますが、14ページにある表記の部分でタイトルのところに、「また、同計画に包含して策定されている」という箇所、この「また」というのが、どこからきているのか、おそらくタイトルで良いかと思っておりますので、こちらについては、分かりづらい表現の部分なので、削除しても差し支えないのではないかと思います。 前回、少し見逃していた部分があったのかもしれませんが、スライドの47ページの部分で、今回追加されたビジョンの部分での③の部分での表現で、スポーツクライミングの次世代への挑戦を支える環境があるという箇所の次の文章になりますが、これについては、「取組意欲が高い」という文言が少し引っかかります。 「意欲の高い」とかの文言にしても良いのかなという感じがいたします。 あまり使わない漢字4文字だったりもするので、少し違和感があったところでもあり、こちらについても検討いただければと思います。 あと、最後の部分になりますが、59ページのところも前回修正点はありませんでした、また少し細かいことで申し訳ないのですが、このアスリートを支援する、

	この右の施策のイメージというところでのアスリート支援のスキーム案というところであるわけですが、真ん中に龍ヶ崎市があって、その左側にアスリートがいるような構造の部分で、一番上の龍ヶ崎から市、アスリートに対する支援というこれ金銭的な支援とありますが、今度、この市内事業者からこの龍ヶ崎に対する応援という表現をしていますよね。 したがって、59ページの部分については、支援と応援という文言が混在していますが、どちらも応援という意味合いであれば、個人的には支援でも良いのかなという感じがいたしました。 意図として協賛金といったことも考えておりますので、こちらも少し表現の足並みを揃えた方が良いかと思います。私の方からは以上です。
事務局	金銭的な応援と支援とで分かりづらい表現だと思いますので、分かりやすい表現に修正したいと思います。
田畑会長	委員の皆様から何か他にご質問等ありましたらよろしくお願いします。
橘川委員	全体的にこの基本構想については良くできていると思いますし、よく纏まっていますが、個人的にはいくつかある中で、渡部さんにお聞きしたいのですが、ボルダリングにはメソッドというものはあるのでしょうか。 つまり、ボルダリングって一番分かりづらいのは、どのように行ったり、どのようなトレーニングをしたり、どうやったらレベルが上がっていくのかについては、どのスポーツにもそういうメソッド的なものがあって、子どもたちや高齢者向けのメソッドがあるかと思いますが、いかがでしょうか。
渡部委員	正直言うと、明確なメソッドというものは無いと思っていただいて良いかと思います。その理由として、スポーツクライミング自体が、かなり、歴史の浅いスポーツであって、仮にそれをオリンピックというものを指標にすると、オリンピックのルールも毎回変わっているような状況です。 ワールドカップであったり、その他国際大会、日本でいえばジャパンカップ等を基準にした場合でも、どうしてもオリンピックというものが上位大会に位置付けられていますので、選手に求められる内容とか、そのスキルも日に日に変わっているというのが実情ですし、去年、活躍した選手が次の年に予選落ちするような現状がありますので、メソッドといえば本当にスキルのなところしかないかなと思います。
橘川委員	まちづくりで考えると、トップアスリートを作るためのそういうものも、オリンピックとか目指すものも大事ですが、子どもたちとか高齢者の話も出ると、なんかそういう人たちが楽しめるような、こういうことやるといいですよというものが必要だと思います。 分かりやすく言うと、例えば、いきなりボルダリングウォールを置かれても、自分たちで何をやっていいのかさっぱり分からないし、そのためには、どういうトレーニングが必要なのかも分からないと思います。 やはり、そのまちづくりという観点で、子どもたちから高齢者まで健康志向でスポーツクライミングを通してやっていくとなると、ある程度そういうメソッドがあると良いと思います。 学校なんかでもそのメソッドに基づいてやっていくような仕組みが必要で、例えば、野口メソッドみたいなのができると、非常に分かりやすいのではないかと思います。底辺拡大の部分では、そういうのが重要になってくるかと思います。 あと、「見る」スポーツなのか、「やる」スポーツなのかというのもあって、「やる」スポーツとなると、トップアスリートを目指すようなスポーツ的なもので特化してしまうと、やっていく上で色々大変だと思います。 一方で、「みる」スポーツで大きな大会を招致していくことは、こんなにスポーツクライミングって凄いな、こういうことを自分自身もやってみたいと思わせるのも、僕は大事だと思っているので、その辺の仕分けをしながら、ボトムアップやトップダウンも色々あると思いますし、「見る」スポーツなのか、「やる」スポーツなのか、それによってまちがどう活性化されていくのか等、色々な視点があると思いますので、そういうことは常に気にしていった方がよいかと思います。 ただ、20年前に笠間市でスナッグゴルフを流行らせる仕掛けをした際に、日本ゴ

ゴルフツアー機構と一緒に取組を始めましたが、その中の職員ですごく情熱を持っていた方がいまして、当初はみんなにやめろと言われ、そんなスナッグゴルフを流行らしたところでプロゴルファーが生まれるわけじゃないし、ゴルフの普及になんかならないと言われてよく馬鹿にされましたが、すごく一生懸命だったので、その人に意気を感じて、私は、笠間小学校と他の全ての小学校にスナッグゴルフの機材を寄付してくれるよう依頼をしました。

放課後の授業の一環として行うという約束をして、全国大会を日本ゴルフツアー選手権とタイアップして、その日本ゴルフツアー選手権の前日にスナッグゴルフの全国大会を開催することができました。

その全国大会を開催して、入賞した子どもたちが、プロゴルファーと一緒に入場行進ができて、サポートをしてやっていけるような、そういう地域にも根差すような仕組みを作ることが大切なのではないかと思います。

本当に、大した話ではないのですが、それをやったことで、今は、笠間市の小学校は全国大会で常に上位にランクインしています。

なぜかと言ったら、20年もの歴史を積み重ねてきていますから、だいたい全国的に見てもせいぜい持って5、6年なんですよ。

笠間市は、20年以上前からスナッグゴルフを導入して以降、穴戸ヒルズというゴルフ場が全部開放して、子どもたちに練習させて、小学校なんかでも練習できる環境を作ることができたからこそ勝手にやれる仕組みが構築できました。

そのボトムアップでやっていく時にやはりある程度メソッドだったり、指導者がいたり、今回のことで個人的に一番思うのは、これを牽引していく組織だと思っています。

先ほど、委員会を設立していくようなお話が出ましたが、じゃあ誰がやっていくのか、プロデュース的な部分やお金集めを誰がやっていくのかということが一番大事だと思います。

結局、野口さんたちにいつまでも頼っていくのは個人的にはいかなものかと思っています。彼女たちはアスリートですから、アスリートにそのようなことをやらせるのはどうなのかなと思います。

例えば、行政がやるのか誰がやっていくかは分かりませんが、しっかりとした基本構想を運営していく、それを実行していく、そのセクションでの役割的なものをきちんとないとこれから大変だなと思います。

スナッグゴルフも笠間市の生涯学習課が責任を持って取り組んでくれたことで、どんどん広がっていった、最初は本当に何だか分からないところからスタートして、あんなスナッグゴルフなんて、色々馬鹿にされたりしましたが、情熱のある日本ゴルフツアー機構の方と私、当時の町長が一生懸命やってくれて、全小学校に寄付してもらったのがきっかけとなってあれだけ広がっていったというのがあります。

スポーツクライミングも学校に体験できるようなものを作って、そういうことの積み重ねでトップアスリートを目指していく人もいたり、生涯スポーツとして楽しんでいく人もいますし、そういう様々な道がスポーツクライミングにもあるなと思います。

例えば、ゴルフというのもあって、ゴルフ好きな人もいますが、興味のない人は全然見ないでしょう。スポーツクライミングも同じですよ。これは誰が見るのかという話になるわけです。

そういうことも含めるとまちとか、地域が一生懸命それを盛り上げていかないと大会を観戦しに行く人なんて出てこないと思います。

大会をしている人だけ見て終わってしまうということになってしまいます。

それでは、経済交流もできないし面白くないものになってしまいます。

きちんとした組織を作ることと、あとは何をやればボトムアップできるかというその野口メソッド的なものができると、龍ヶ崎市とそういうものができて、それに基づいて小学校が色々なチャレンジができてどんどんレベルが上がっていくと思います。

その中で、突き抜けた人はまた違う世界に行って、トップアスリートを目指して

	いく。そういうことをやっていかないと本当に続けていくのは難しいと思います。 アクションの内容が満載に登載されていて、私は素晴らしい構想だと思いますがやはり誰がやるのか、誰が牽引していくのか、どういうことをやっていけば良いのかを明確にしていけないと続かないという気がいたします。 そういうことができれば、スポーツライミングも拠点を作ったり、組織を作ったりきちんとやっていければ、時間はかかりますが、トップアスリートも出てくるし、ボトムアップにもなってくるのかなと個人的には思います。 少し長くなりましたが、その2点、とにかく組織とメソッドをきちんとやっていかないと、しんどいのではないかと気がします。以上です。
田畑会長	ありがとうございました。 メソッドについては、橘川委員がおっしゃるようにこれから長くかけて作っていくものだと思います。 組織については、前回の審議会でも話が出ましたが、この点について事務局ではどのように考えているのか教えていただければと思います。
事務局	組織につきましては、今のところ、このデジタル田園都市国家構想の中で、令和8年度を目安に協議会のような組織といいますか、色々関わっていただけるような団体から意見を聞くような場や会議を設けまして、その中で、例えば、体験会はどういう内容の体験会がいいとか、そのような意見をいただきながら進めていきたいと考えております。 例えば、大会についても、こういった大会が良いとか、トップアスリート支援でいえば、こういった制度が良いのではないかな等、そういう意見を伺いながら決めていくような場を作らせていただいて、その中で1つの団体になるのが良いと考えております。 例えば、理想ですが、収益が図れるようなアクションであれば、そういったところで、1つタッグを組みながら動いていくとか、推進事業体というのは、全て1つで動くのが一番良いと思いますが、まずはそのように色々な協力連携を図っていけるような団体と、意見を交えながら組織を作っていくというところで現在は考えております。
塚本委員	それについては、実現できる目処は立っているのでしょうか。
事務局	完全な目処は立っておりません。
塚本委員	それだと、しっかり実行していくとなると、目処立てるまでに5年ぐらいかかってしまうと思います。 失礼な言い方になってしまいますが、やはり役所がきちんとやっていくとかで実行していけないと、じゃあ誰が実行していくのかという話になった時が一番怖いと思います。
橘川委員	スナッグゴルフは、笠間市の場合は教育委員会で実施し、ゴルフについては、生涯スポーツになるため、生涯学習課が窓口となっていました。 やはりいずれにしても根付くのには、時間はかかります。 プロゴルファーが3人出てきたから、じゃあ自分もプロを目指すという連鎖になって、小学生で本当にプロゴルファーを目指す子どもたちが出てきたりします。 一方で、その生涯スポーツとしてのゴルフを楽しむあり方のようなものを作る必要があると思います。その辺をうまくコントロールしていけないと、どこが事務局になってやっていくとか、どうやっていくかってやっていかないと、いくら組織を作っても、笛吹けども踊らずになっていくと思います。 何かしら注意して進めていった方が良いかと個人的には思います。
田畑会長	ありがとうございました。 他に、質問等ある方いらっしゃいましたらお願いいたします。 どうぞよろしくお願いいたします。
渡部委員	先ほどの組織作りに少し近い話になりますが、この基本構想の中の67ページのアクションの部分で、令和7年度ということでもうかなり迫ってきていると思います。 その体験会の開催、企画開催、大会との連携というところで、検討しているんだけど後手に回ってしまい、結局、大会があった時にもう連携できる体制がないということに陥る可能性があると思います。

	実際に、2ヶ月後に龍ヶ崎初となるスポーツクライミングユース大会が開催されますので、そういった連携とか、実際やれるものから考えていった方が良いのではないかと思います。体験会はどこかが自然にやってくれるわけではないと思うので、実験ベースで、前回もお話があったかと思いますが、既存で実施しているお祭りなど、そういう人が集まるところで体験ブースを実施してみるのも良いかと思います。 とりあえず、誰に委託するというよりかは、とりあえずもうそこに壁があるようにするというのが第1優先になってくると思いますので、壁がないことには、体験もできませんし、既存の壁がニューライフアリーナしかないという以上、あそこはどうやって、人を来てもらうかっていうのも難しいと思います。 実際、クライミングをされたことがある方がかなり少ないという状況なので、アリーナのキャパも考えると、そういうイベント等でとりあえずその壁を作る方が早いのかなと思ったのですが、そういったことから進めていくというのは可能でしょうか。その辺について、少し事務局の方にお聞きしてもよろしいでしょうか。
事務局	体験会ですかね。
渡部委員	はい、そうです。
事務局	今回のユース大会につきましては、先ほども委員の方からのご意見をいただきましたが、プロモーションというか、周知が不足しているというようなこともございますが、この大会を来年度以降に繋がるように、今後は進めていきたいと思っております。 したがって、関連団体や関係団体の方にお声掛けをさせていただきたいと思っております。 体験会の開催につきましては、渡部委員がおっしゃいますように市内には壁がサブアリーナと森林公園にしかないの、そういったところにつきましては、来年度以降、こちらで委託を考えております。 委託の中で、そのような事業者から提案をいただく、こちらの方でもこういう体験が一番良いのではないかと、そういったことを考えていきたいと思っております。 その他、関連するようなイベントに参加させて、そこで体験会をさせていただくとか、そういったことができるといいかなと思いますので、そういったイベントとの連携なんかもイベントを担当されている団体から意見をお聞きしながら、より良い体験や話し合いの場を作っていきたいと思っております。
塚本委員	渡部委員にお聞きしたいのですが、体験ベースができるぐらいの仮設の壁ですがその壁の設置費用というのはどのぐらいかかるのでしょうか。 30、50、100万円など概算でいいのですが、どのぐらいかかるものなのでしょうか。
渡部委員	実績ベースでいえば、例えば、その壁の設置だけで考えて、運動場の真ん中に壁を建てた場合でいくと、しっかりとした壁だと100万円単位で費用がかかる可能性があります。 その他、取り付けるホールドによって金額の大小がかなり変わって来たりします。どういうホールドをつけるかで、かなりコストが変わってくるというのが、クライミングのちょっと難しいところです。 クライミングジムでよく言われているのは、仮に壁が100万円できるとして、そしたらマットで100万円、ホールドで100万円というふうに、壁の規模が大きくなればなるほど、ホールドにもかかるお金と、マットにかかるお金が変わってくるというイメージで、例えば1億円の壁を作ったら、ホールドも1億円かかるぐらいのイメージです。 したがって、ホールドもかなりコストがかかるという実情があります。 マットも体験会レベルであれば、1度用意したものは何回も使えるものですが、一般ジムベースで言えば、利用者が多ければ多いほど、当然マットも消耗しますし、ホールドもそれなりに頑丈でなかなか壊れませんが、クライミングシューズというのはゴム靴なので、そのゴムの跡がどんどんついてしまつてとてもスリッパしやすくなったりします。 体験会とかであれば、例えばその運動靴とか、裸足とかで登るので、洗浄さえすればそういうゴムがつくってことはないですが、ただそのパネル等も頻繁にホール

	ド取り外しをすると、穴がどんどん開いてきて、パネルの消耗というのもありますし、例えば、その屋外使用目的とすると、雨天でなくても、湿気があるようなところでたくさん使えば、木がベースになると思いますので、そういったところも消耗してくるし、あとは、どこに建てるかですかね。 屋根があるところに建てるのか、それがコンクリートなのか、運動場なのか、あとはその後ろに基礎があるのかないのかによって、コストがかなり変わってくるというのが実情です。 そこに、実際どこの業者に頼んで、どのくらいの人件費がかかって、それこそさっき説明させていただいた通りどういうホールドを使うのか。 オリンピックで使ったと同じようなレベルのホールド使うのか、公園に設置されているような拳程度の本当にネットでもどこでも買えるようなホールドを使うのかによります。 いずれにせよ、目的によってかなり金額は変わってくると思います。
塚本委員	ありがとうございます。この点については事務局の方で認識されていますでしょうか。
事務局	当然うちには、ニューライフアリーナにしか壁がないので体験会を外でやるっていう場合は、こういう打ち込み式になるのか、レンタルみたいなところを借りてくるのかっていうことで、費用というのは結構かかってくるというのは認識しています。
塚本委員	ありがとうございます。 もう一つ先ほど橘川委員の方から、笠間の話がありましたが、教育委員会とどこでしたでしょうか。 教育委員会とあと日本ゴルフツアー機構のプロゴルファーの集まりですね。 先ほど事務局からの説明の中で、何かしらの外部委託にするというお話がありましたが、どこかの適切な事業者へ外部委託するというのでしょうか。
事務局	現時点では、広く公募型で募ってプロポーザルという形で行い、事業の提案を受けるといような手続方法で考えております。 プロポーザルの中で、優秀な提案を行った事業者を選んでいくような委託の仕方と考えております。
田畑会長	他にいかがでしょうか。
望月委員	今のお話の中で、渡部委員の方で、そのような相応しい業者については、全国的に見てたくさんいらっしゃるのですか。
渡部委員	私もすべて把握しているわけではないので、正確な数字などは全然分かりかねますが、感覚的に増えてきてはいると思います。 なぜならば、クライミングジムが置かれている環境というのが、日に日に厳しくなっているというのがあります。 理由としては、オリンピックを開催する度にクライミングジムというのが年々増えていると言われていますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、どちらかといえば減少傾向にあると思っております。 そのジムについては、だいたい1都道府県であつたり、例えば、10万人に1件当たりというような基準があると思いますが、現状でいえば食い合いが起こっている状況であると思います。 なぜならば、それぞれのジムが一般人から見ると、クライミングジム自体が子ども向けなのか、それともプロ向けなのか、どのジャンルを対象としているのかが分かっていないからだだと思います。 クライミングというのが、要はどういうスポーツなのかということが分かっていないと思います。 私からしても、正直、どのような人を対象としているか分からないようなジムが、公共施設も含めて700～800件程度あると思います。 上手に運営しているジムは、コスト面や立地等、例えば、人口が多い都会のど真ん中で、とにかく気軽に何も持たずに入店して、2時間ぐらい登る人が多数来店して潤っているジムもあれば、遠方でもプロレベルの人がたくさん来るようなジムもありますし、料金が安価だからという理由で公共施設のようなところにたくさんの人

	が通っているという例もあると思います。 どのようにこの施設に人が来てもらうかとなった時に、今はその子ども向けのキッズスクール等を全国的に展開していますが、副業的に運営されているジムについては、かなりそこに資本を投入して行っているというのが実情です。 その中の1つとして、クライミングウォールのレンタル事業というのを個々に展開しているところもありますので、事業者として、クライミングのパネルだったり体験会等に貸し出しをしながら兼業している業者が多いです。 そのやり方の方が効率もいいので、ホールドもありますし、パネルを置く場所だったり、クライミングジムのスタッフなので、インストラクターとかも兼ねているというのが実情で、数というのは分かりませんが、コスト的にもそのジムの運営によって変わるということと、専門レベルで運営している施設事業者は高額になります。その代わりに、イベントごと丸投げできる可能性もありますが、現状、イベントを一つ企画するよりも、まずウォールを整備していくことが個人的には、優先順位が高いと思っているので、とにかくウォールとホールドをセッティングできる人を確保できれば、事業を委託しなくても実施できるのではないかと個人的には思っています。
望月委員	すみません、ありがとうございます。 私も先日、ワークショップに参加させていただきましたが、そのセッターやクライミングを教える指導者がすごく重要であるというのは理解しました。 あと、日本山岳クライミング協会、茨城県山岳連盟でそのような協力が得られたり、ジャパンカップをもし龍ヶ崎で開催するとなれば、来年、再来年で実現できる可能性とかあるのか浅野委員に伺いたいと思います。
浅野委員	まずイベントの仮設のウォールに関する協力については、渡部委員から民間のクライミングジムに協力してもらう話がありましたが、例えば、龍ヶ崎市でイベントを実施する際に、入札の関係等である程度きちんとした事業者でないと、そもそも入札に手を挙げられない可能性があります。それで言えば、東商アソシエイト等、いわゆる公共事業の壁を建設している業者とか、そういう会社に委託するしかないとを考慮すると、本当に数社とか限られると思います。 個人でも委託しても良いということであれば、民間のジムに委託できますが、行政とのマッチングが上手くいくのかなという不安はあります。 これまで茨城県山岳連盟でそのようなイベントで、ウォールを立てて実施した例というのはありません。 ただ、大子町のキャンプ場でイベントを実施した時に、私もウォールを立ててやったことがあります。それは地元の建設会社から協力を得て、単管パイプとコンパネで作って、マットは近くの体育館、小学校から借用して即興で実施したことはあります。 鉾田市は生涯学習課がスポーツクライミングを推進しておりますが、過去にウォールを作ったことが事例としてあり、移動式の持ち運びができる小さいウォールを購入して、生涯学習課の2,3人で組み立てられるようなものすごく小さいものですが、それをお祭りの時とかに、マットとウォールと骨組みをもって立てて行うような形でどの規模で実施していくかによるとは思います。小規模でやるなら、市直営で行えるくらいのサイズで充分足りると思います。 来年度のジャパンカップが実施できるかどうかということなのですが、まずそれを龍ヶ崎市の方で日本山岳スポーツクライミング協会に誘致をしないといけませんよね。 その辺が今後どこまで進むのか、来年度実施する計画になっていますが、今もう1月なので、今からすぐ動くのか、もしくは4月から動いていくのか分かりませんが、市から茨城県山岳連盟が要請を受けて、人員面で要望された人数を集めて、協力していくような形になるかと思っています。 もちろんジャパンカップなので、東京から審判も派遣されたりとか、A級B級C級といったランク付けがされておりますので、例えばA級の審判、B級の審判は東京や千葉から派遣し、C級の審判を茨城から派遣するといった流れになります。 したがって、茨城県山岳連盟としては、そういった依頼がないと動けないという

	形になります。
望月委員	ありがとうございます。渡部委員や浅野委員のお話を受けて、龍ヶ崎市としてはどのように考えているのでしょうか。
事務局	体験会の開催などは、やはり仮設のウォールを立てるとかレンタルするというのもあるのですが、例えば、民間ジムが来れば、渡部委員がおっしゃっていたように、委託等を締結して開催することができると思います。 とにかくウォールがサブアリーナにしかないので、体験会ができる規模ぐらいのものを新たに投資するというのも1つの手段かもしれませんが、民間ジムを誘致して来ていただけるような取組をすることで注目してもらい、体験会に来てもらって、そこで小さい大会とか、現在もニューライフアリーナ等でも開催していますが、そういった市民向けの大会をある程度お願いして実施してもらうことで、そういった広がりを持てるのかなと思っています。 あとはジャパンカップなどの大会につきましては、本事業の機運を盛り上げていくためにも、やっぱり第2回の審議会の際にも委員の方からも意見をいただきましたが、1つシンボリックな大会を誘致していくということで考えております。 日本山岳スポーツクライミング協会にこういったことであれば誘致できる条件という話は、多少伺ったりはしておりますが、まだ日程が決まらないことには話の土俵に上げられないといったところもございますので、そういった点は、随時、関係性を構築しながら取り組んでいきたいと思っております。
望月委員	ありがとうございます。 あとジャパンカップの誘致とかは、どのように進めていくとお考えでしょうか。
事務局	こちらにつきましても、今のところ市の方で、日本山岳スポーツクライミング協会の方に、条件面や期間についてどの程度なら誘致できるのか聞いたり、クライミングの第一人者である野口さんの方にも、そういった感覚的なところとかは少しお伺いしているところです。 実際に誘致する際には、先ほども申し上げましたが、全体的な事業として委託の中でそういった大会誘致の手法とか、そういった点も委託の内容に含めようと思っております。 あとは誘致するには、関連団体の協力・連携というのは当然必要になってきますので、改めて意見を聞く場を設けて、より良い手法を検討していきたいと思っております。
望月委員	ありがとうございます。もう少しよろしいですか、今年3月に開催するクライミングユース大会は、ニューライフアリーナ龍ヶ崎にある既存のウォールを使用して開催する予定でしょうか、それともさらに新しいものを作るのかどうかお伺いしたいです。
事務局	はい、ニューライフアリーナ龍ヶ崎メインアリーナに仮設の壁を立てて大会を実施する予定です。
渡部委員	先程の話に戻ってしまいましたが、今年3月のクライミングユース大会については、プロモーションが少し弱いかないということを自分も肌で実感しておりまして、内部のクライミング界にいる人間でも、まあ自分が出る大会ではないからというものもあると思いますが、内外ともにアピールが足りていないというのは、少し感じております。 今回の大会として、市内の人が参加するような大会ではないからというものも少なからずあるかと思いますが、スポーツクライミングのイベントを使わない手はないはずです。一方で、大会として仮設のウォールを立てて、全国から人が来て、それこそ宿泊施設が埋まって、普段よりも人がたくさん来て良かったねでは意味がないと思います。 少し前回お話したかもしれませんが、昨年、佐賀県で行われた国体でいえば、やはり参加した選手に対してまちのPRパンフレットがあったりとか、どういう所に市の魅力がありますとか、ただ来たり参加するだけではなくて、龍ヶ崎を知ってもらうという良い機会だと思います。 加えて、市内の人も、クライミングの大会があるから観戦に行こうといっても、正直、ルールが分からないと観てもよく分からないし、何を競い合っているのか

	分からないと思うんですね。 クライミングのルール等を会場内にちゃんとポップで出したり動画を作製したりして、あと2ヶ月あればそういうものが出来ると思います。 そこに体験するようなウォールがあれば、興味を持った子がその日に始めるきっかけに繋がったり、子どもたちにとっては、ただ見ているだけでは絶対つまらないと思いますので、遊びの1つとして取り入れても良いのではないかと思います。 そういった企画部分は外注業者にすべて委託しているかもしれませんが、市として、大会を盛り上げていきたいという意気込みや一緒に大会準備を進めていこうというスタンスをそもそも持っていないような気がして、少し後手後手に回ってしまっているのではないかと個人的には思います。
橘川委員	これについては、私も先ほどいつやるのかって聞いたら、今年の3月に開催すると聞いて、審議会のメンバーも何も知らないって話はないだろうと思って、ここで少し大騒ぎしてしまいました。 全国から子どもたちが集まるんだったら、色々なことを仕掛けられると思うんですね。 今からやれることがあれば、茨城県として喜んで応援させていただきますので、よろしくお願いします。
渡部委員	私は、三重の出身なので、定期的に三重に帰省したりするのですが、地元の選手に聞いたら、AKIYO'S DREAMは出場するのかわいたら、出場すると言っていたのですが、その選手は、全国大会でトップ10に入るような選手なので、そのレベルであれば確かにその野口啓代といった冠の大会は、やはり何かあるだろうというふうになって、そもそもそのカテゴリー小中学生のカテゴリーの冠大会というのは、まだまだ公式戦では少ないので、確かに私もその立場だったら出場したいと思います、果たして上位数パーセントの選手だけが出るような大会では意味がないので、それをきっかけに来るっていう子もおそらくいると思います。 三重県山岳連盟の話をすると、会長が結構その普及にすごい力を入れていて、建設会社系の会社をされてるので、自分の倉庫にクライミングの壁が3つ4つあります。三重県は、地形としてけっこう山脈がありますので、山岳連盟が主体となって山岳系の体験会やイベントを年間二桁程度開催しています。 私からやってくださいと言ったわけじゃなくて、山岳連盟の有志の方で、そういうふうなイベントをやっていたいておりまして、正直言うと、会長等は、当時8000mの山を登っていたすごい方なのですが、スポーツクライミングをされておりません。ただ、そういう方でも、壁であったり、物さえあって少しでも知識があれば、セッティングはできます。体験するレベルであれば、プロの手を借りることもなく、安全管理をきちんとした上であれば、素人でもできるのではないかと思います。 それらを茨城県山岳連盟に丸投げするというのも違う話だと思いますが、橘川委員からお話があったように、まずそういった事業者がいるかどうかが大事になってくると思いますし、一から組織を作るのは大変ですが、現実的に、龍ヶ崎市に壁がない以上、クライミングをしている人は10人もいないのではないかと思います。 そもそもモチベーションというのが少し分からないので、やはりここは行政が力を入れないとなかなか難しいのではないかと個人的には感じております。
望月委員	教育委員会にお尋ねしたいのですが、小・中学校では、今回のクライミングユース大会の参加募集については、周知されているのでしょうか。
木村委員	今のところは周知されておられません。 ただ、今の色々なお話を聞いていて、3月に開催する大会は、本当に大きなチャンスだと思って聞いておりました。 やはり大会を何となく開催して、体験できる場とかなければ見に行ってもしょうがないなっていう気持ちが湧いてしまうと感じました。 体験できる場があれば、子どもたちが行きたいという気持ちになるし、当然親も子どもたちに引っ張られてついていくと思いますので、人数的にはかなり集客が見込めるのではないかと思います。 この大会については、無料で観戦できるのであれば、自由に体験できて、そして

	観戦することもできる、見てクライミングってすごいなと感じながら親しむきっかけになるかと思います。 これはもう市内の小・中学校合わせて16校に、これからでもすぐ大会に関するアナウンスはできると思うので、お願いしたいと思います。 これについては、この期間の中でそれが可能かどうかというのがありますが、先ほど浅野委員からお話があった、その委員会でも管理できる仮設のウォールというか、今からでも実施可能なのか分かりませんが、そういうのがあれば実際に各小学校あたりに提供してもらえるような形で良いのかなと思います。 新たにウォール自体を教育委員会から学校にお願いするよりも、可能であれば今回の大会等で使用したものを学校に提供していくようなイメージを持ちました。
事務局	一応、体験の一環として、クライミングユース大会の時に、サブアリーナにアップ用のウォールというのでも立てる予定ですが、体験できる時間が少し限られてしまう可能性があるかもしれませんが、一般開放という形で実施したいなということで、現在調整をしているところです。
木村委員	すいません、よろしいでしょうか。 そのサブアリーナというの私も思ったのですが、できればアリーナの中で大会運営を行って、まず屋外の場所で何をやっているのか分かるようなもの、簡易的なものですが体験できるものがあって、施設の中で実際に大会も見てみようという気持ちにさせるようなイメージはいかがでしょうか。
渡部委員	木村委員がおっしゃる通りだと思います。 少し厳しい言い方になってしまいますが、やはり知らない人に興味を持ってもらうかというスタンスをいかに持つことが大事だと思っています。 私はその指導関係についても、仕事柄させていただいておりますが、基本的にはその世界を目指すような子たちが対象なのですが、例えば公共事業系の仕事であるとか、これを機会にクライミングを始めようということがあったりとか、体験会等のイベントの1つで、子どもが登るという機会もあると思いますが、いかに興味を持ってもらうかだと思います。 例えば、普段何もないところに高い壁があれば目立ちますし、例えば子どもが、ホームセンター等に行って、大人から見ると陳列棚はちょうどいいかもしれませんが、子どもから見たら高く見えるということがあると思います。 何が言いたいかというと、要はその目線によっても全然、興味を持つポイントが違うということです。 話は変わりますが、体験として午後4時頃からアップウォールを登れるという話でしたが、それ正直意味ないと思います。それから、大会運営の方はあまり干渉しない方がいいです。 問題は別の壁があれば、関係ない話なので、その壁については正直、浅野委員から本当は答えるべきかもしれないですが、壁は全然1週間でも作れます。 したがって、検討というよりは分かる人に聞いてもらう方が早いと思います。
事務局	体験は、触れやすい見れるところにあるということが、大事だと思いますが、仮設でウォールを立てるにしても市の事業になりますので、それをどこまで安全面とかが許容されるかというところが1つポイントになるのかなと思います。 やはり、見る機会とか、触る機会というのをいかに作っていくかというのが重要で、確か1回目の審議会の時に渡部委員からも話があったかと思いますが、体験会を何回も増やしていくという取組が大事であると言っていたところもあるので、この基本構想の中の体験会の開催というところで、何か1つ増やしていけるようにどんどん拡大していくって、移動式の壁とか、そういったものがもし可能であれば例えば、それを保育所や幼稚園などに持っていくと、そういったようなこともできるような製品で安全面もクリアした上で、色々な体験会の開催というのができるかと思っています。 色々な公園であったり、商業施設だったり、あとは、市の人気のあるイベントに直接人がいるところに入っていくというようなことが一番効率的にはなるかと思うので、そういった体験会の機会をなるべく増やしていくような取組にしたいなと思っています。

	先ほど、周知が少し足りないのではないかとというようなところで、ご指摘もいただきましたが、確かにおっしゃる通りだと思っております。 この事業の周知については、12月に始めますということで、市の定例記者会見を同月に行いました。その時に、野口啓代さんも同席いただきまして、記者の前で直接PRをしていただいたところでございます。 12月25日に参加申込をスタートいたしまして、現在、確認する限りでは、350人の応募中、150人のエントリーがある状況です。こちらについては、野口さんが各所に呼びかけたことによって、即座に100人近くが集まったのかなと感じているところです。まだまだ、あと2ヶ月ありますので、やはり先ほど皆様からご意見がありましたに興味が無い人に足を運んでもらうという視点も非常に大事だと思います。 この辺を全小・中学校等の周知の方ですね。それから、どのように体験できるかについては少し検討することになるかと思いますが、その辺はあと2ヶ月程度ありますので、その辺少し周知をさせていただきたいと考えております。以上です。
松橋委員	様々なスポーツまちづくりの事例の中で、これまでの審議会を通してお話を伺っていて、例えば31ページ資料ですね、沼津市、裾野市、あと岩手県の紫波町の事例が載っています。 裾野市は、成果の部分で記載されているとおりで、合宿をたくさん誘致しようということで、ツーリズムで滞在費、飲食費、経済効果を生み出しましょうという話で、クロスカントリーのコースなので、整備費がかからないとは言いませんが、かなり安価で、そこを使ってくださいという話です。 紫波町のオガールも大変有名な事例で、非常にすぐれた施設が官民連携されており、そこに合宿で来て、合宿以外にも色々な市民の利用も含めて経済効果が生まれているといった話です。 沼津市は、日本フェンシング協会と包括連携協定を締結して、沼津市をナショナルトレーニングセンター施設の一角において、フェンシングを通じた交流、健康的な心や体を育むことのできる施設「F3 BASE」に、毎年2500万円ぐらい予算を支出しながら運営を行っているといった話です。 私もこの龍ヶ崎市がクライミングのまちと聞いた時に、最近のトレンドに乗らないんですね。 つまり、最近のトレンドに乗るものというのは、やはり消費喚起とか経済効果をいかに生み出すのかっていうところに行くと思います。 国がそれを言ってるので、それが非常に飛びつきやすいところなのかなと思っていて、このタイプとしては、最近じゃないですね、若干古いです。 70年代～80年代ぐらいにやっていたモデル、ツーリズムとか言われる前に、地道に草の根で普及振興を図って、まちの中での競技人口を高めていき、結果的にその中からトップアスリートが生まれていって、我々はこういうまちだよって言うような、それに近いものだなと今日改めて聞いていて思いました。 橘川委員から冒頭いただいたお話がやはりすごい示唆的で、ゴルフは多分、もともとは個人が民間クラブに行っていてやってたはずなんです。 個人が民間クラブに通ってやっている。つまり部活とか、学校の教育レベルまで落とし込んで、育成とかやってなかったはずなんですよ。 それをおそらく、メソッドを使って、市内全小・中学校に入れたわけですね。 それを入れたことによって、裾野が広がって、最終的にそこまで行くかどうかまではおそらく分からずに取り組んでいたのではないかと思います。結果的に、アスリートが出たということだと思います。 そのようなことで一気に進んでいき、ゴルフのまち笠間というのは、笠間は他にも色々なまちと言われてますが、1つのその特徴になってきたと思います。 それを考えると、今回龍ヶ崎でクライミングというのは、ここ20分ぐらいは、普及振興の話になっておりますが、普及振興に関心を持って、どれだけの人口が取り組んでいくんだというところが、本当にこの予算が切れる3年後以降のことも踏まえると、非常に重要になってきて、そのために何をやっていくのかというのが、すごく大事な事だと思います。 もうその1点に尽きるのではないかと今聞いていて思いました。

	したがって、大会を招致するにも、野口さんという存在がいるのも、それにどのように紐づけていくのかということなのかなと思っております。 私は、前回スポーツクライミングのビジョンとか、それが持つてるフィロソフィーとかは何なのでしょうかといいことを、冒頭に聞きたいなと思っておりましたが、スポーツクライミングをスポーツだと思われていて、サッカーとクライミング、野球とクライミングだったらどっちを取るかとやられてしまうと、クライミングの人口は、おそらく全く増えないと思います。ですので、クライミングのようないわゆるメジャー種目とかと違う。週1回やって、体の基礎を鍛える部分でどうなのか、私はあまり詳しくないので、少し渡部さんにお聞きしたいのですが、どのように捉えているのか。何かその辺りの位置付けを明確にしたいです。 龍ヶ崎市民で子どもだったら、みんなちょっとクライミングやろうよみたいな、やって当然でしょうぐらいの何かそういうステップでいかないといけないのか。 その中から当然燃えてくる人は絶対出てくると思うんで、家族ぐるみで頑張ってるって、何人かやっていたら、ポコッとこう出てくる方がいて、中学校の部活はもう無くなってしまおうと思いますが、中学校でクラブチームのような感じでやるところがポイントなのかなと思います。 協会会というのは、一般的に作る場合は、やはり組織体とか事業者である利害関係者が作るんですよね。必ず利害関係者が入ってくるので、宿泊事業者とか、それによって普段仕事をしている人たちが結構入ってくるので、そうでもない人たちがボランティアに集まって協会組んで、みんなやろうというのは、やはりなかなか難しいと思います。そうあって欲しいですが、なかなかそうはいかないところが現実的にはあると思います。 それは、先ほどの私の話ではなかなか組みにくいんじゃないかなと思います。 それであるならば、どこにエネルギーを求めるといえば、やはりみんなやって楽しいからやって、その中からポコッとアスリートが生まれてくるみたいなプロセスを描けるかどうかなのではないのかと思って、伺っていました。 再三申し上げますが、他の事例ではなかなか無いですし、敢えて民間主体でやるところの種目を絡めて、各小・中学校にみんなやろうみたいな感じで、落としていくってことだと思います。 笠間でやられた話も含めて何かプロモーションも含めて、外にプロモーションするのも大事ですが、やはりまず市民がやってみようかということが大事かなと思います。 別に、野口さんみたいに登れなんて誰も言わない話ですし、これをやるのがウェルネスに繋がり、ひいては生涯スポーツに繋がっていくのかなと思います。ウォーキングやジョギングをするように、クライミングをしようというような感じになるかどうか分かりませんし、そういうものが存在するのも分かりません。ですので、ユース大会とか、ジャパンカップを呼ぶのであれば、そういう機会にしないと本当にもったいないことだと思って聞いてました。以上です。
渡部委員	クライミングは、手軽な部分があるかどうかということだと思いますが、個人的な意見で言えば、歩く、走る、階段を登る、その次ぐらいの難易度かなと僕は思っています。 例えば、脚立を上るとか、色々な階段があると思いますが、なだらかな階段なのか急なのかで、その延長線上に登るといふ行為があります。一般生活の中で、皆が登るといふ行為はしていますが、登る行為自体を認識していないと思います。 スポーツクライミングという名前はけっこう最近言われていて、元々はその山登りの中を登る、岩を登るといふ行為が派生していった今のスポーツクライミングになっていることを考えると、そもそも登るといふ行為は、簡単に言うと不必要な行為だと思っています。 その山を登るといふ目的がなければ、そもそも岩は登りませんし、危険と思えばそのような技術もみんな磨かないだろうと思います。 なぜ登るのかとなると、パイオニア精神みたいなところがあって、誰も行ったことがないからとか、その上の景色が見てみたいからとか、登る間のプロセスを楽しむというところがかなりクライミングというスポーツでは大事になってくるのでは

	ないかと思います。
田畑会長	他にいかがでしょうか。 今日が最後の審議会になりますので、宿題を残さないような形で議論を進めていきたいと思っています。
湯原委員	私は、3人娘がいて、3番目の娘が現在小学校3年生になりますが、年長からクライミングのレッスンに通っています。 クライミングを始める一番きっかけとなったのは、ニューライフアリーナで実施しているサブアリーナでクライミングのレッスンを受けた後に、ステップアップして他のジムに通っています。 実際、明後日、ニューライフアリーナでそのミニコンペがまた開催されるので、そういうのもぜひ皆さんに見に来ていただけたらと思っています。 けっこうニューライフアリーナでレッスンに通っている子どもたちも出場するのですが、娘と一緒に登りたくて、千葉県や東京都からお友達がコンペに来てくれる予定です。 実際、3月にユース大会もありますし、実際どういうものであるか少し見に来ていただいて、こういうイベントも一緒にできるのではないかと、この大会は全国からお友達も来ますし、せっかく龍ヶ崎に来るのに、何も楽しめないんじゃないかと思っています。あと実際クライミングをやっているお友達にも、今回ユースの大会は、小学校3年生から参加対象なので、低学年の子は出場はできませんが、そういう子たちもやはり見るだけではつまらないので、体験の壁は本当に作ってもらいたいなとすごく思います。 特に、龍ヶ崎市民の方は実際体験して、何か見ているだけのと登るのとでは違って実際やってみると、目の前にあるホールドをつかめないのが現実で、持てなくて、何だろう、こんな難しい競技をみんな切磋琢磨して頑張っているんだなというのを知ってもらいたいので、明後日の大会も3月の大会にしても本当無駄にしないで欲しいと思います。 このクライミングの大会以外にも龍ヶ崎市の事業で大規模なイベントをいくつか開催していると思いますので、そういった機会も逃さずやっていただければと思います。よろしくお願いします。
田畑会長	ありがとうございます。委員の皆様から色々意見を聞いていると、やはり今この計画を作っている基本構想の策定の議論というところで、策定後の実際のアクションというところが、やはりいかにして実行していくのかというのが非常に難しく課題が残っているような部分がありますが、今日はこの基本構想というところの中身で良いのかどうかというところで図っていききたいと思います。少しその辺を中心とした議論でお願いしたいと思います。いかがでしょうか。 この基本構想の中で、文言であったりとか、この基本構想では少し違うのではないかなというところの中身で、実際にプロモーションをいかにしていくかというのは、おそらく次の段階での話になってくるかと思っています。 したがって、基本構想の範囲で議論を進めていきたいと思っています。 実際、この基本構想を策定した後は、この構想に基づいて、実際にどうやって進めていくのかという所になると思います。 今年3月の大会もありますが、そこでどう盛り上げていくのかというのは、次の段階になってくるかと思いますが、この基本構想において、概ねこれで進めていくような形でよろしいでしょうか。
全委員	〈了承〉
田畑会長	それでは、基本構想の案につきまして、委員の皆様から了承いただいたというような形でお伺いいたしましたので、こちらをもって基本構想という形で今後進めていきたいと思っています。これで議論は以上とさせていただきます、何か事務局の方からございましたらお願いしたいと思います。
事務局	今後の予定になりますが、本日、第3回の審議会を経て今後市民からの意見募集としてパブリックコメントの手続きを取らせていただきます。 パブリックコメントで意見が出ましたら、それに基づいてまた修正を行いまして第4回審議会で答申という形を取らせていただきたいと思います。

	第4回審議会については、令和7年3月28日（金）に開催したいと考えています。開催時間等の詳細については、また再度通知させていただきます。 第4回審議会において、審議会から市長への答申というものを提出させていただく予定です。 答申書の作成方法につきましては、一般的に3通りございまして、1つ目としましては事務局において、これまでの意見を踏まえて、答申案を作成し、委員の皆様にご共有させていただいて、事前のやり取りの中で、答申書を固めた上で、次回の審議会において市長へ答申を渡す形です。 2つ目としましては、答申案の内容につきましては、これから委員会で審議をいただいて、答申に取り上げて欲しい事項をリストアップし、その上で事務局が答申案を作成して、事前のやり取りの中で答申案を固めた上で、次回の審議会において市長へ答申を渡す形です。 3つ目は、委員自身で答申案の検討をまとめまして、作業のみを事務局が行うというような3つです。 以上となりますが、答申についてどういたしましょうか。
田畑会長	今、事務局より、答申の作成についてご説明がありましたが、私個人としては、1番目に掲げられた方法が良いのではないかと考えております。 どうしても意見を追加してもらいたいということがあれば、本日中に事務局に提出していただき、それを反映した素案を事務局で作成するような形で、委員の皆様にご共有して、作業を進めていくという形が良いかと思いますが、いかがでしょうか。
全委員	〈了承〉
田畑会長	それでは、事務局からご説明がありました、1番目の案という形で進めていきたいと思えます。 今後、答申を作成していくという作業があり、全3回の審議会に渡って様々な議論がありましたが、やはりスポーツクライミングを実施するにあたっては施設整備というところについても、やはり大きな事業の一つという形になってきたりとか、また施設整備にあたっては、多額の税金の投入というところもありますので、こういった後藤委員のところでもやはりその予算の内容についても色々ご意見を頂いている部分もありますので、今後、予算の投入については、いわゆる市民との合意形成を図りながら進めていっていただきたいということで、付帯意見という形で、私の方から意見を述べさせていただければと思います。 委員の皆様はいかがでしょう。 他に意見が無いようですので、以上をもちまして、本日の議題は終了という形になります。 委員の皆様におかれましては、円滑な進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。 進行を事務局の方にお返しいたします。
事務局	議事以外でも構いませんので、皆様からご質問やご意見等はございますでしょうか。よろしいですか。 ご質問等が無いようでしたら、繰り返しになりますが事務局から次回の会議についてお知らせします。 第4回審議会については、令和7年3月28日（金）に開催したいと考えています。開催時間等の詳細については、また追って再度通知させていただきます。 最後となりますが、3月15日（土）・16日（日）に、クライミングユース大会があるということで、皆様の様々な意見がございましたが、例えば、メインアリーナは少し時間的に厳しいですが、サブアリーナ等の仮設のウォール等は、春休みに入るタイミングでもあると思うので、そういった期間に体験としてウォールを置いて使用できないかとか、イベント前の周知とか、委員の皆様から出た意見を考慮しながら、今後において事業を進めて参りたいと思います。 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。 また、長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。 それでは本日の会議は以上となります。

お疲れ様でした。

令和7年1月に行われた審議会の内容については、上記のとおり相違ありません。

令和 年 月 日

会 長 _____

委 員 _____

委 員 _____